

# 北日本・民族文化の考古学・考現学講座

## 開催要項

主催：弘前学院大学地域総合文化研究所

後援：弘前市教育委員会

**期 日** 2011年12月11日（日）9：00～15：30

**場 所** 弘前学院大学礼拝堂

**テーマ** 「縄文文化とアイヌ文化の  
大きい住居の比較考古学・考現学」

### 趣 旨

日本の伝統民族文化としての、北日本に特有な居住形態である縄文文化の大きい住居と近世アイヌ民族文化の大きい住居を比較して、考古学と考現学の観察、分析の方法論により住居（規模等）から無形の集落構造、社会組織などを根源的に考える。

「考現学」とは、弘前市出身の今和次郎が「考古学」に対して創出した人類の現代生活文化を分析する学問である。文化の光線を拾うため、今が創出した手法（ものの見方・観察の比較研究）を応用して、「縄文」から「現代」に通底する大きい住居に関する文化的スピリットを探る。

## 発表内容

- 縄文文化の大型住居の変遷・・・・・・・・・・中村 哲也（青森県埋蔵文化財センター）  
発掘されたアイヌ文化の住居・・・・・・・・・・三浦 正人（北海道埋蔵文化財センター）  
アイヌ文化のコタン構造ーポロチセ・ボンチセ・・・・森岡 健治（沙流川歴史館）  
アイヌ社会の家と家族構成・・・・・・・・・・遠藤 匡俊（岩手大学）  
民族誌からみた大型住居・・・・・・・・・・武藤 康弘（奈良女子大学）  
【質疑】縄文文化とアイヌ文化の大きい住居を比較する・・・・司会 鈴木 克彦  
（弘前学院大学地域総合文化研究所）